

「沖縄県病院対抗フットサル大会： ボールでつながる人と人」



浦添総合病院整形外科 島川 朋享



皆様、初めまして浦添総合病院整形外科、医師7年目の島川朋享（シマカワトモユキ）です。

まず自己紹介をさせていただきます。

僕は、5歳からサッカーを始め東京の私立暁星小学校に入学、中学3年生では東京都最優秀選手に選ばれ、高校インターハイでは全国でベスト8にもなりましたが、当時所属していた部のモットーは「文武両道」でした。期末試験の成績が悪いとサッカーをさせてもらえない環境…。

高校卒業時にプロも考えましたが当然無理で、ケガをきっかけに出会った医師に憧れ私立東京医科大学の医学部に入学。そこでフットサルと出会いました。

皆様、フットサルという競技をご存知でしょうか？

5人vs5人で行われるインドアサッカーのことで、2007年にFリーグという全国のプロリーグも日本にできました。今年のワールドカップ

で日本代表はBest16という快挙を成し遂げました。

大学時代より僕はフットサルを始め、小中高の同級生の2人は現在もプロ選手として活躍中です。

卒業後、浦添総合病院に初期研修医より就職しました。フットサルは大学6年生の大会を最後に辞めようと心に決めていました。しかし、「文武両道であれ」、その魂が沖縄で再燃。研修医2年目の途中よりフットサルを再開。沖縄県代表選手にも選ばれ2008年に九州大会にも出場しました。将来はアスリートになりたかった、それが今やその力になりたい、そんな思いから現在スポーツドクターを目指し日々研鑽しております。

さて、浦添総合病院にはかつて長嶺先生（外科）が所属していたサッカー部「ガンバ浦添」が存在。しかし、2007年研修医で僕が来た時にはすでに消滅し、院内のフットサルを行いた

//////////////////////////////////// 趣味のグループ //////////////////////////////////////

いメンバー（放射線の武嶋さん、外科の谷口先生）を中心になんとか院内の人をかき集めて、フットサル大会に出場していました。

それから5年が経ち、サッカーやフットサルの人気は急上昇。院内で作ったフットサルクラブも現在部員はなんと33名となりました。

これだけ集まれば大会をやりたい。やるなら病院対抗で！という思いから、今回で4回目となる大会を我々が主催し150名以上（15病院）

が集まる県内でも稀にみる大きな大会となりました。ちなみに、僕らも2回優勝しております。

「ボールを蹴ること」、それは共通の言語。

院内にとどまらず、院外の医療者同士の距離も徐々に近くなっています。

前回より合間の時間を用いてFIFAが提唱する予防プログラム「FIFA 11+」なども皆で実践し、医療的な側面を持たせ、障害予防への意識を高めようとしています。

この輪がさらに広がれば、県全体のスポーツの医療者達の力を借りてスポーツ現場における突然死に対しての対応や、様々なスポーツを通じた医療活動ができるかもしれない、と期待を抱いています。

参加希望の方、またご興味がある方は shimatomo@hotmail.co.jp までメールをいただければ光栄です。



浦添総合病院フットサルクラブ



障害予防プログラム FIFA11+の実践

